

平成 22 年産米の品質低下を教訓に・・・

気象変動に負けない米づくり対策を徹底しよう！

1 土づくりをしっかりやろう

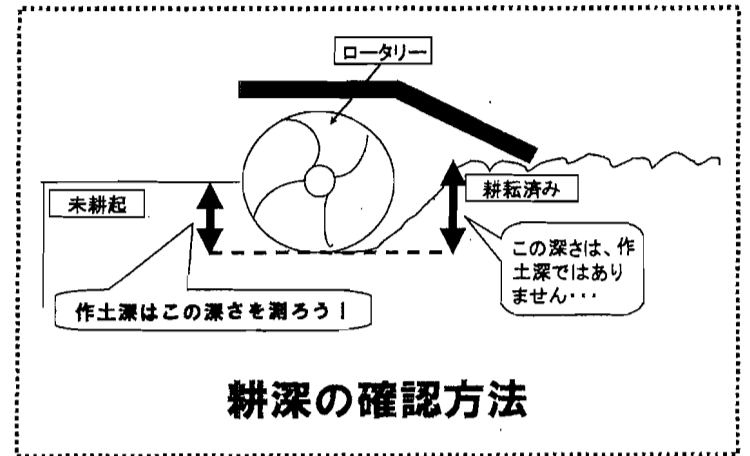
(1) 作土深の確保

- ・深耕（15cm を目標）を実施し、根域の拡大につなげよう。
ただし、大幅な深耕は厳禁。下層の不良土壌による地力低下を招く場合がありますので、毎年少しずつ耕深を深めましょう。（年 1cm が目安です。）

(2) 土壌条件に合った土づくり肥料の散布を行おう。（下表を参照）

2 茎質向上を図ろう

- (1) 厚播き厳禁。育苗播種量の適正化（乾籾 130～140g/箱）を図ろう。
- (2) 大苗厳禁。育苗箱の 10a 使用箱数を適正化しよう。（50 株植→15 箱程度 60 株植→18 箱程度）
- (3) 目標穂数の 7～8 割の茎数を確保したら、ただちに中干しを開始しよう。（田植後 1 ヶ月が目安です。）



耕深の確認方法

3 早すぎる出穂の是正（作期改善）で高温障害（白未熟粒発生等）の回避

- (1) 4 月田植え厳禁。極端な早植え・早播きは厳に慎もう。
- (2) 5 月 4 日（連休後半）以降田植えを行おう。（目標は 5/10 以降の田植えをお願いします。）

早すぎる出穂を是正するために 5/3 以前の田植えは厳禁です。

↑ そのために

播種日は 4/10 以降に！！ これ以前の播種では 5/4 以降に植えても老化苗となります。

（JA あっせん苗は育苗センターと協議し、播種のピークを例年より遅く設定するよう働きかけます。）

4 穂肥のやれる稲姿への改善

- (1) 毎年生育過剰により穂肥が施用できないほ場や、初めて 5 月 10 日以降田植えに取り組むほ場では基肥量を 1～2 割減肥。
- (2) 例年、基肥一発肥料を使用し倒伏している場合は、基肥量を 1～2 割減肥し倒伏させない栽培に心がける。

5 病虫害防除

(1) イネごま葉枯病対策の徹底

- ・例年、低地力ほ場で多発生しています。（特にケイ酸やマンガンが不足しているほ場）
- ・常発地では土づくり肥料の施用と薬剤防除をセットで行ってください。

土づくり肥料	施用量 kg/10a	含有成分 (%)				備考 (推奨業者等)
		ケイ酸 (Si)	苦土 (Mg)	マンガン (Mn)	(鉄) Fe	
ケイカル	120	31	4			JA ささかみ
あたり米ソイル	40	26	10			JA ささかみ
ソイルスター	40	18	6			JA 北蒲みなみ
マンキチ粒状 30 号	30～40	19	2.4	30		JA ささかみ、JA 北蒲みなみ（常発地にお勧め）
エフグリーン 2 号	60～100	25	8	6	18	(株) 関口商店（常発地にお勧め）
タキグリーン 2 号	60～100	32	7		2	(株) 関口商店

※上記表は含有成分を示すため、保証成分とは異なる場合がありますので注意してください。

表の肥料等の使用に当たっては、特別栽培米等の要件がありますので各 JA・集荷業者にご相談願います。

- ◎ JA 北蒲みなみ 営業店資材センター (Tel.62-2134) 京ヶ瀬支店 (Tel.67-2121) 安田支店 (Tel.68-3622)
- ◎ JA ささかみ (Tel.62-2410)
- ◎ (株) 関口商店 (Tel.63-1662)

- ・薬剤防除については、イモチエース粒剤を出穂期 20～10 日前に散布しましょう。
- ・2 回の穂肥施用で後期栄養を確保するとともに、登熟期の十分な水管理も発生防止の重要なポイントです。

(2) いもち病防除対策の徹底

- ・もち、早生品種は、田植え時に箱施用剤を必ず散布しよう。（葉いもち防除の徹底）
- ・補植苗は、田植え後速やかに撒収しよう。（発生源をつくらない）

気象変動にきちんと対応し、オール 1 等米で阿賀野市産米のブランド力を高めましょう！

(2 等米では 8,000 円/10a 以上の減収になります。)